

分類名 [水稻]

3 収穫所要日数に応じたササニシキ・ひとめぼれの収穫適期指標

農業センター

1) 取り上げた理由

水稻の収穫適期は、出穂期後の日平均気温の積算値や黄化籾割合を基準として判定されている。積算温度についてはササニシキの場合960～1,170℃、ひとめぼれの場合920～1,100℃、黄化籾割合については90%が各々適期とされている。しかし、作付け面積の大きい農家では刈り遅れによる品質の低下を招いている事例がある。

そこで、良質米を確保できる収穫適期の早限と晩限について検討し、収穫所要日数を考慮した収穫適期の指標を作成したので、普及技術とする。

2) 普及技術

- (1) 良質米（一等米相当の品質）を確保できるときの黄化籾割合は、ササニシキでは60～95%、ひとめぼれでは70～95%である。このときの積算気温は、ササニシキでは930～1,150℃、ひとめぼれでは、940～1,100℃である（図－1）。
- (2) 外観品質はこの早限と晩限の範囲の中間付近で最も良くなる（表－2）。
- (3) 収量は出穂後の日数が多くなるほど増加するので、収穫完了日を晩限に設定してから収穫開始日を決める（表－1、表－2）。

表－1 収穫適期指標

品種	項目	収 穫 所 要 日 数 (日)												
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13
ササニシキ	黄化籾割合(%)	95(晩限)	92	89	86	83	80	78	75	72	69	66	63	60(早限)
	積算気温(℃)	1150	1135	1115	1100	1080	1060	1040	1025	1005	990	970	950	930
	出穂後日数(日)	53	52	51	50	49	48	47	46	45	44	43	42	41
ひとめぼれ	黄化籾割合(%)	95(晩限)	92	89	87	84	81	78	76	73	70(早限)			
	積算気温(℃)	1100	1085	1065	1050	1030	1010	990	970	955	940			
	出穂後日数(日)	50	49	48	47	46	45	44	43	42	41			

注) 出穂後日数の推移は、仙台の平年の気象経過をあてはめた目安。

3) 対象地域等

ササニシキ及びひとめぼれの作付適地帯

4) 特に留意すべき事項

- (1) 黄化籾割合は、ほ場全体の平均を観察により判定する。
- (2) 降雨等により収穫作業が遅れることがあるので、収穫所要日数を多めに設定し刈り遅れによる品質低下の防止に努める。
- (3) 指標の積算気温及び黄化籾割合は、㎡当たり籾数の多少に関わらず共通する部分から求めたが、籾数の少ない稲は籾数の多い稲より早く適期に達するので、収穫日数が長期化する場合は籾数の少ないほ場から収穫を開始する。

